医療勤務環境改善マネジメントシステム普及促進セミナー
令和元年１０月１日(火) @福島開催

資料３－２

【事例発表２】

“思いやり”と“やりがい”をもって
働き続けられる職場を目指す!

～WLB活動を起点にまちを挙げた実践へと～

Wellne

最上町立最上病院
総看護師長　　奥本　和枝

introduction

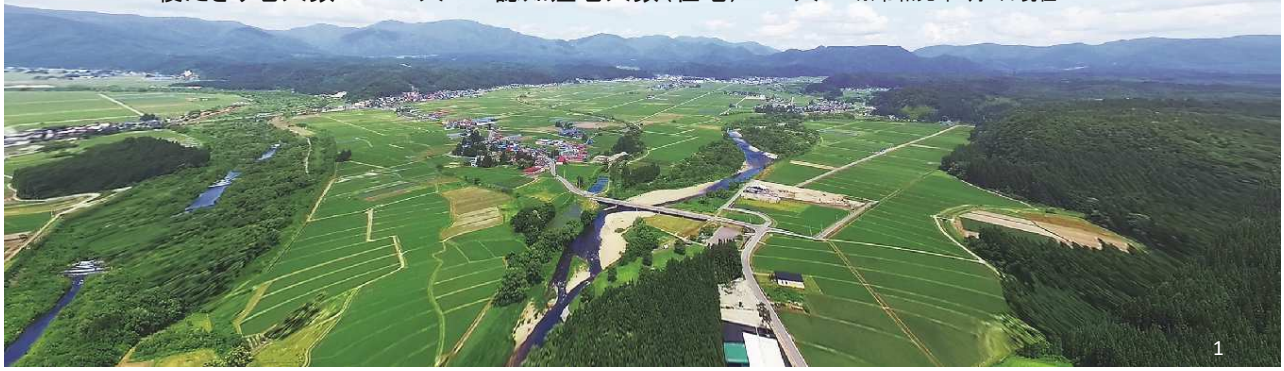
わたしたちの町の概要 ①

山形県最上町

面　積　330.37㎢
人　口　8,567人　男 4,185人　女 4,382人
世帯数　2,853世帯
高齢化率　38.3%

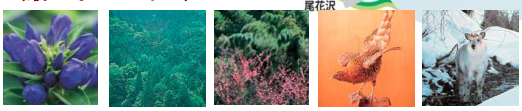
・65歳以上　3,281人　・75歳以上　1,790人(20.9%)
・一人暮らし老人数 280人　・老人夫婦世帯数　314世帯
・寝たきり老人数　85人　・認知症老人数(在宅) 195人

※令和元年5月1日現在



わたしたちの町の概要 ②

〈最上町のシンボル〉



町の花	町の色	町の木	町の鳥	町の獣
りんどう	緑	梅	山鳥	かもしか

町章

最上町の「も上」を図案化したもので、誕生した最上町の和を“飛躍発展”の姿に象徴したもの。

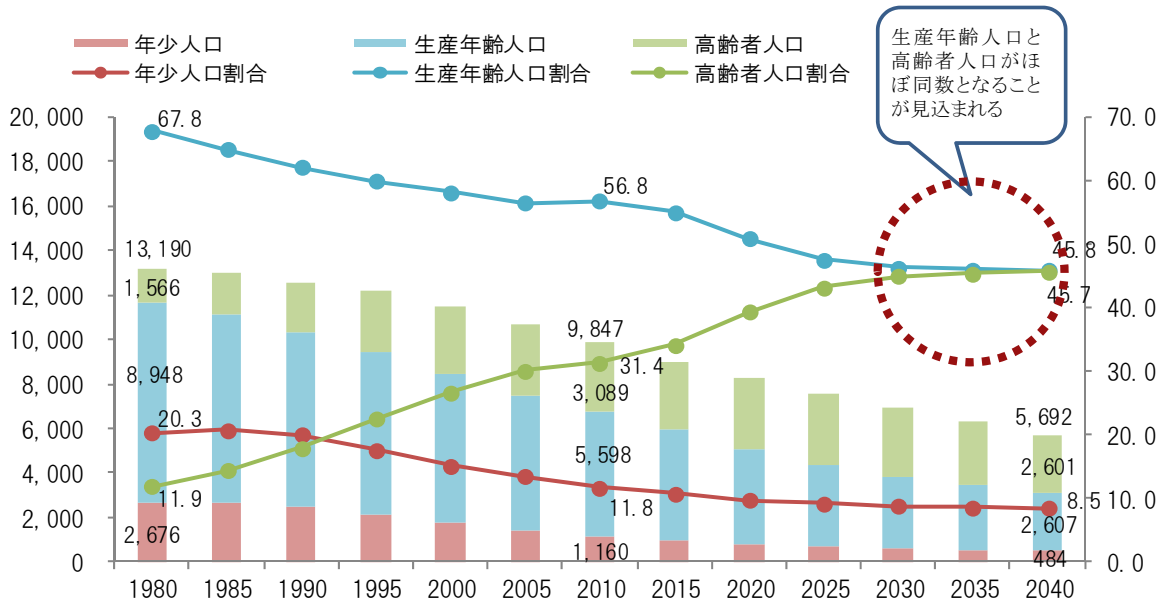
最上町は、山形県の北東部に位置し、北部は秋田県湯沢市、東部は宮城県大崎市に隣接する県境の町です。総面積が330.27k㎡で県内で9番目に大きな町であるが、四方を奥羽山脈に属する1,000m級の山岳に囲まれ、山林が町土の80%を占めている。また、町の中央部には、その先を最上川へと注ぎ込む小国川とその支流が流れており、これに沿う姿で36の集落(行政区は51)が形成されている。

最上町の気象条件は厳しく、夏季にはオホーツク海に発生する高気圧の影響により低温と日照不足が続き、この冷涼な気候がこれまでに幾度となく大冷害をもたらしている。また、冬季は北東からの季節風が強く、町の全域が特別豪雪地帯に指定されている。

このように自然環境の厳しい条件下にはあるが、瀬見・赤倉両温泉に代表される豊富な温泉資源や、清冽な流れを保つ川資源に恵まれており、また地形的にも盆地を形成していることから、太古から“小国郷”として独自の生活圏と文化圏を有している。

わたしたちの町の概要 ③

最上町における３区分別人口の推移と将来予測



ウエルネスタウン最上について①

２枚の写真が語りかけるもの　S30～50年代

きびしい冬の生活　⇩　大黒柱を欠く不安

お年寄りの越冬入院が社会問題に

⇧

ウエルネスタウン構想が生まれた背景

ウエルネスタウン最上について②

何人たりとも　住み慣れた地域で
安心して心豊かな幸福人生を
おくることができるまち

健康な身体　健康な心　健康な社会

保健・医療・福祉の一体化による地域包括ケア体制の整備

ウエルネスタウン構想

ウエルネスタウン最上について③

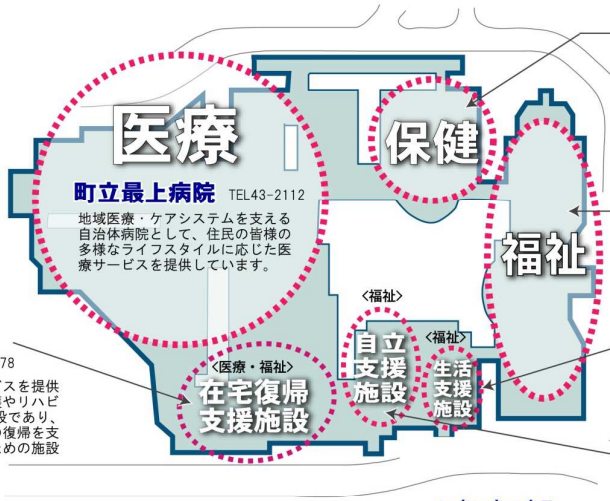
ウエルネスプラザの建設

総事業費
約60億円

平成6年　病院・健康センター
7年　高齢者総合福祉センター
9年　老健やすらぎ
12年　陽だまりの家
グループホームやすらぎの家

保健・医療・福祉の総合施設　**ウエルネスプラザ**

〒999-6101　山形県最上郡最上町大字向町64番地の3
TEL（代）0233-43-2112　FAX 0233-43-3291



町立最上病院 TEL43-2112
地域医療・ケアシステムを支える自治体病院として、住民の皆様の多様なライフスタイルに応じた医療サービスを提供しています。

介護老人保健施設 やすらぎ TEL43-3378
医療と福祉を統合したサービスを提供する総合的ケアサービス(介護やリハビリ等)施設であり、在宅への復帰を支援するための施設です。

健康センター TEL43-3117
保健、福祉の分野を担当する町の行政組織「健康福祉課」を配置しており、ウエルネスプラザ全体のコントロール機能としての役割を担っています。

健康クラブ TEL43-3180
高齢者総合福祉センター
デイサービスセンター
高齢者に限らず町民全体の生きがいづくり体力増進等のサービス提供を行っています。
指定管理者／社会福祉協議会

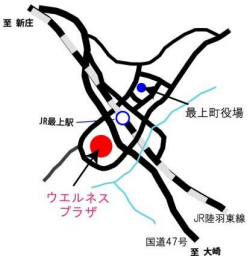
高齢者生活福祉センター 陽だまりの家
高齢や健康面など一人暮らしや高齢者夫婦で生活に不安のある方を対象にした施設です。
指定管理者／社会福祉協議会

認知症高齢者グループホーム やすらぎの家 TEL43-3125
認知症の方を対象にした少人数での共同生活による介護施設です。

特別養護老人ホーム 紅梅荘 TEL43-3661
日常生活を営むのに必要な介護やリハビリテーションなどを行う入居型の介護施設です。

いきいきハウス
花卉やアスパラガス等の苗づくりをこのハウスで行っています。

バイオマスボイラ建屋
バイオマスボイラ３基が稼働しており、プラザ内の全施設に、冷暖房等のエネルギーを供給。



introduction 最上病院の概要

診療科

・内科（月～金曜）
・外科（毎週月曜）
・整形外科
　（金曜と第1・3水曜）
・眼科（木曜）
・婦人科（金曜）

病棟

・一般病棟 60床

H30年度決算から

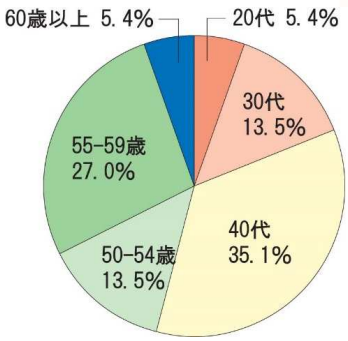
〇一日平均外来患者数　116人
〇一日平均入院患者数　52.8人
〇病床利用率　88%
〇他会計繰入額　443,795千円
〇医業収支比率　62.5 %

町立最上病院における医師・看護師の状況

医　師
・常勤医4名
・応援医師及び派遣医師8名（週あたり）

看護師
・正規看護師　27名　正看 27名
・臨時看護師　10名　正看　3名　准看2名　※パート含む

<看護師/年齢構成>



<看護師/新規採用の状況>

・2015年 1名　・2016年 0名
・2017年 1名　・2018年 0名
・2019年 2名

<看護師/定年退職者>

2017～2020年　10名
・2017年 3名　・2018年　4名
・2019年 2名　・2020年　1名

病棟看護師の平均夜勤回数 8～9回

Our team target ・Our mission

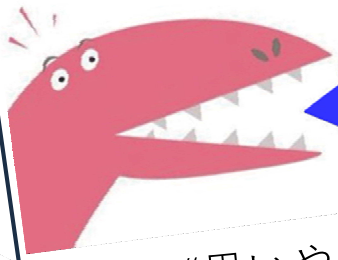
『健康な体・健康な心・健康な社会生活』を基本理念とする私たちの町の“ウエルネスタウン構想”。構想への着想から四半世紀を超える歳月を有しており、保健・医療・福祉の各領域における連携・協働の拠点施設としてウエルネスプラザを整備し、地域包括ケアシステムの構築・充実に努めております。そのなかで当院は医療を担う拠点機関としての機能を有しており、組織目標に『厚い信頼関係と温かな思いやりで“あ・し・たの医療”を目指します』を掲げるとともに、これをWLB推進のmissionと一体化させて取り組んでいます。

Wellness 健康な体・健康な心・健康な社会生活を目指す

当院のワーク・ライフ・バランス

平成２８年度に「山形県看護協会」からＷＬＢ推進にむけたモデル病院に指定。
当院では病院長をトップに全職域で構成する推進委員会〃を設置し、勤務環境のあり方等を主にこれまでさまざまな活動に取り組んできました。
さらにこの運動が町行政や町議会にも理解され、特に『看護師確保』にむけて、町を挙げた取組みへと進化しています。

ＷＬＢ推進事業への取組み



H28～30年度
3年間の取組み

Vision

“思いやり”と“やりがい”をもって働き続けられる職場を目指そう!

最上町立最上病院WLB推進委員会

これまでの主な
ふり返り

2018年度 **Third Stage**

３年目の具体的な取組みは次項から

2016年度 fast Stage

・医療職版WLBインデックス
調査の実施
・WLB推進委員会の設置
・院内学習会の開催
・Projectチームの設置

夜勤体制のあり方にむけた検討
お互い様意識啓発スローガンの
募集
WLBニュースmogamiの発行

2017年度 Second Stage

・医療職版WLBインデックス
調査の実施
・WLB推進委員会の組織強化
・Projectチームの取組み

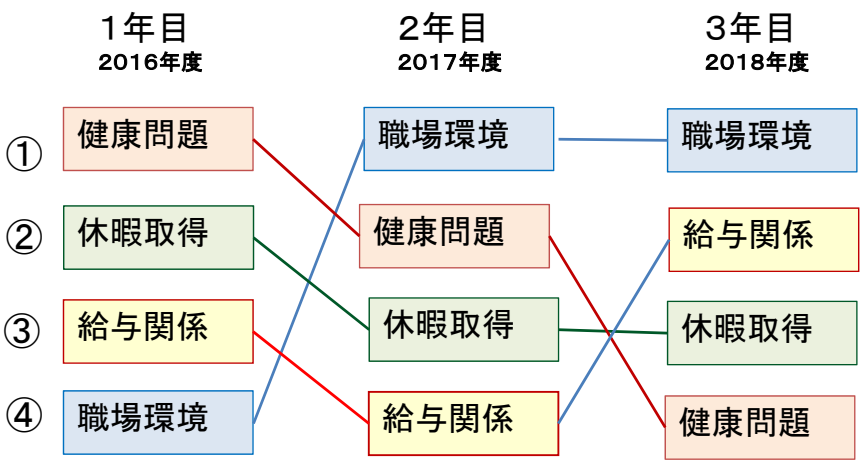
WLBご意見箱の設置
かえる&ふくろうバッチの製作
夜勤体制のあり方にむけたアンケート調査
他院からの情報収集
ふれあいサロン開設
ソフトボール大会&
BBQの開催
WLBニュースmogami
の発行

ミッション・ビジョンの実現に向けた アクションプログラム

mission　ウエルネスタウンもがみ支える自治体病院として
住民に信頼されるあしたの医療を目指します

vision　思いやりとやりがいをもって働き続けられる職場を目指そう

〈課題の優先順位の推移〉



人員減による業務量の適正化や臨時職員の賃金や手当て面における処遇改善の声が高くなっている。

3年目のゴールに向けて

① お互い様意識を高め、職員全体が団結できる。
② 賃金が見直され、働きやすくなっている。
③ お互い様意識が定着している。
④ 身体への負担が少ない勤務体系になっている。職員が増えている。

ゴールイメージ
・休暇がとれる
・時間外が少ない
・研修会に参加できる
・バースデイ休暇がとれる

マイナスイメージ
・職員採用がない
・業務量が増え続ける
・将来に不安がある
・長く勤めたくない

3年目の行動計画

① 感謝BOXを設けて、職員や町民に見てもらう。
※ありがとうレター
② お互いの思いを伝えることができる場を設ける。
③ 資格加算や夜勤手当、夜勤回数加算について働きかける。
④ 休暇や休業の制度について学習の場を設ける。
⑤ お互い様意識が定着している。
④ リフレッシュ体操の実施。
※毎月の定例朝礼で実施

Mission & Visionの具現化にむけ、これまで看護科・医療科・事務スタッフの混合による3つのプロジェクトチームが活動を行っています。

Project 1 WLB推進広報P

Project 2 夜勤体制改善検討P

Project 3 お互い様意識向上P

<検討課題>
WLBの基礎知識の習得、そして情報の共有化にむけた情報ツールをどう確保すべきか!

Project 1

WLB推進広報P

<3年目の主な取り組み>

① インデックス調査結果の実施・分析

他院との比較分析を行い、当院が抱える課題を明確にし、職員・スタッフがこれを共有する

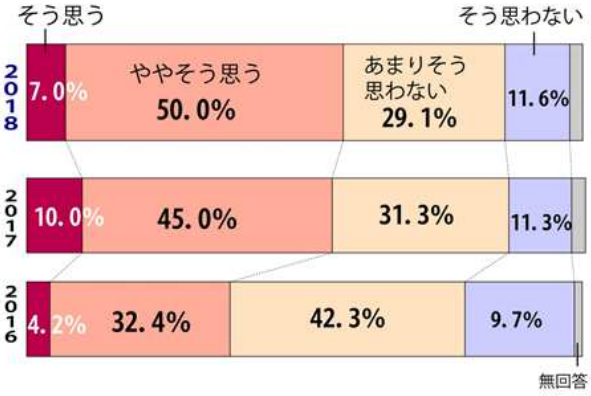
② WLBニュース Mogamiの発行

あまり負担をかけず、必要な情報をみんなで共有できる紙面づくりをどう行い、どう継続的に発行するか

※:現時点で第10号まで発行

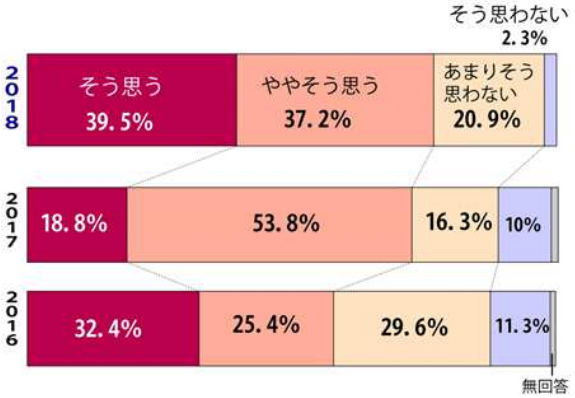
インデックス調査　2018年度の特徴的な結果

職員を大切にする組織であると思うか？

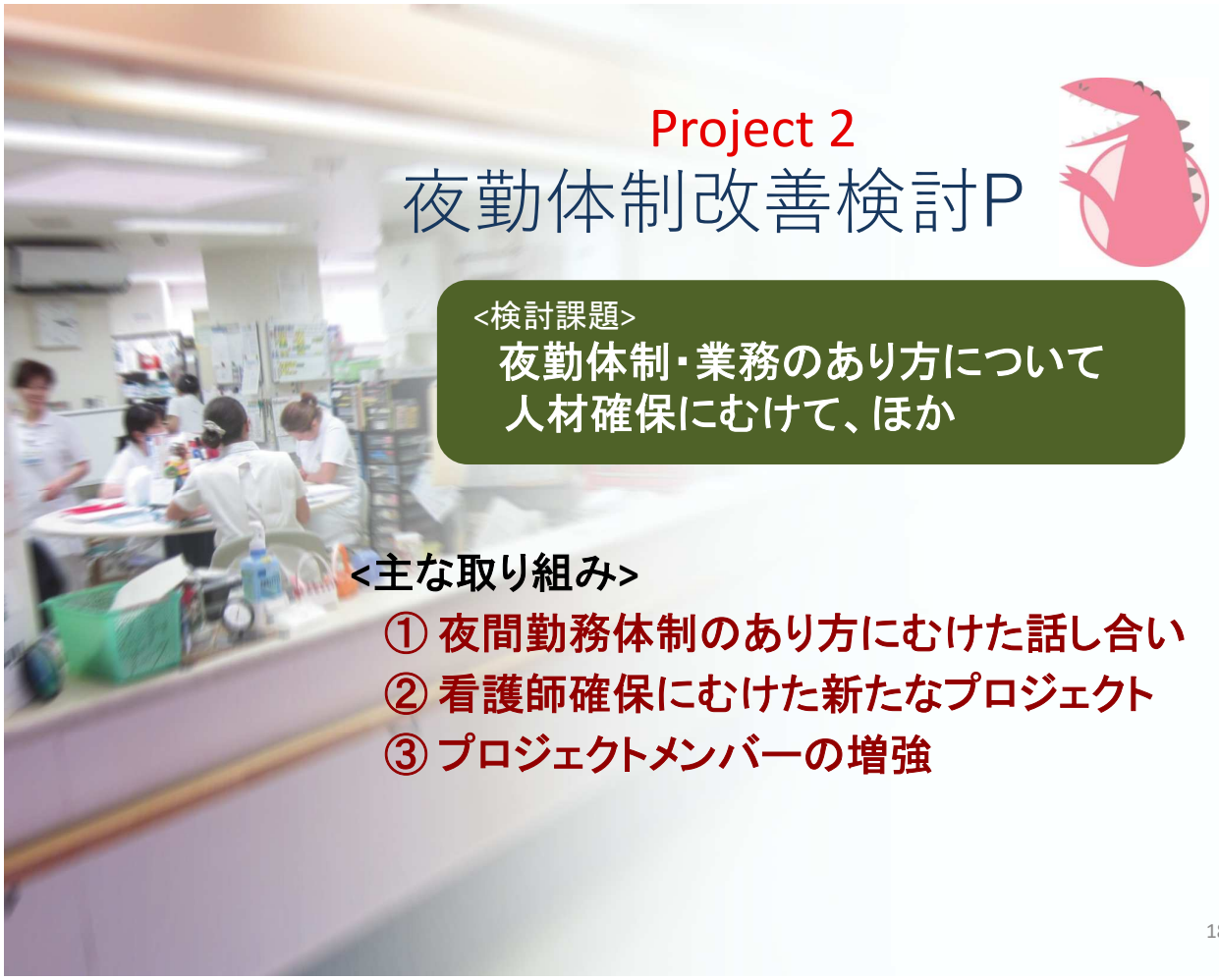


「そう思う」「ややそう思う」が増加し、全体の6割近くを占めた。「あまりそう思わない」と「そう思わない」が前々回より約11ポイント減少した。

気兼ねなく帰宅することが出来るか？



「そう思う」「ややそう思う」が増加し、全体の7割超を占めた。また「あまりそう思わない」「そう思わない」が大きく減少した。



Project 2

夜勤体制改善検討P

<検討課題>
夜勤体制・業務のあり方について
人材確保にむけて、ほか

<主な取り組み>

① 夜間勤務体制のあり方にむけた話し合い
② 看護師確保にむけた新たなプロジェクト
③ プロジェクトメンバーの増強

夜勤勤務体系P

3年目の主な取り組み
1. 新メンバー加入 (4月)
2. 勤務体制のシュミレーション作成 (5月)
3. シュミレーションをもとにした話し合い (ワールドカフェ形式・5月に2回開催)
4. ワールドカフェや各部署で話し合われた内容をもとにさらに話し合いによる意見交換 (7月)
5. 深夜看護業務と当直看護業務の連携にむけた話し合い (8月)
6. 看護体制のあり方を主テーマに病院長と懇談 (10月)
7. 病棟から外来へのヘルプ勤務にむけた研修 ※見習い業務 (11月)
8. 看護師募集にむけたプロジェクト実践 ※山形県移住促進事業 (11～12月) 11月　ふるさと回帰センターにて相談コーナーを開設　12月　最上町暮らし体験ツアーを開催
9. 今後の看護体制についての話し合い (12月)
10. 病棟と外来の看護師の勤務異動 (2月)

Project 3　お互い様意識向上P

<検討課題>
お互い様意識を高め合うために、まずは行動しよう！

<主な取り組み>

①お互い様意識高揚にむけた標語募集と啓発ポスターの作成
②バドミントン&BBQ交流の開催

お互い様意識の向上にむけて、昨年からスポーツ交流 (昨年はソフトボール大会)を実施。今年度は雨天のため に急きょ会場を屋内に変更し、バドミントン大会を開催 しました。その後、バーベキューを行いさらに交流を深めました。

・「お互い様意識」で広がる笑顔のリレー
・助け合おう未来の自分たちの為に
・さりげない心づかいがお互い様意識へとつながる
・みんな仲間、お互い様でより良い医療を
・お互い様　体も健康　心も笑顔
・お互いの仕事を理解し、助け合う気持を持とう
・「お互い様」の思いやり「お陰様」の感謝の気持ち
・次世代へ負のレガシーを残さないように取り組む
・お互い様！と声かけ合い、向上心を忘れないで!!
・行動する前に一言を上司に言いましょう
・気持ちに余裕が持てる職場を目指そう
・みんな職場の同志
・報連相で業務の助け合い
・未来の自分の為にも思いやりを
・他人の立場からも 物事を見よう
・お互いを気づかい活力ある職場
・共に支え合う心で繋ぐチーム医療
・ありがとう　譲り譲られ優しい心
・お互いに声かけあって、ありがとう
・リフレッシュ休暇もみんな取得しよう！
・笑顔でつなぐ 『お互い様』 の♡リレー
・あいさつと気くばりで笑顔の連鎖を作っていこう
・私たちの 心の余裕が おもてなしの医療を作る
・お互いに 声かけ 気遣い働きやすい職場に

「お互い様意識」向上
啓発スローガン・標語
選抜総選挙
応募作品一覧

・みんなで話そう、考えよう、よりよい職場　ゴールにむけて
・ゆずり合い、助け合いの心で働きやすい職場を作ろう
・あなたも 私も お互いを思いやる気持ちを持ち、あたたかく、活気のある職場に！
・“お互い様～“のキャッチボールをしよう!!
・ゴミを拾いましょう　清潔第一　最上病院
・大変だからこそ、思いやりある言葉、
・思いやりある行動をしていきましょう
・お互い様意識で創ろう最上の職場風土
・再確認　初心忘れるべからず
・休息休日でリフレッシュ!!
・健康・安全第一
・人の良い部分を学ぶ
・W　ワイワイしながら
L　リラックス次の休暇を
B　バトンタッチ
・笑顔で乗り切ろう 楽しい職場
・心のゆとりは　仕事のはかどり
・声かけて　助け合い　繋がる絆
・職場づくり　笑顔　元気　家庭円満
・助け　助け合いの気持ちを持って 行動
・みんなのため　いつかは自分も世話になる
・相手の気持ち　考えたことがありますか？
・お互いにいたわりの心で、気持ち良く働こう

「お互い様意識」向上啓発スローガン・標語

選抜総選挙の結果

最優秀作品賞

ありがとう 譲り 譲られ 優しい心

優秀賞・入選1席

「お互い様意識」で広がる笑顔のリレー

優秀賞・入選2席

ゆずり合い、助け合いの心で働きやすい職場を作ろう

入選3席　お互い様　体も健康　心も笑顔

入選4席　W　ワイワイしながら　L　リラックス次の休暇を　B　バトンタッチ

入選5席　共に支え合う心で 繋ぐ チーム医療

入選6席　「お互い様」の思いやり「お陰様」の感謝の気持ち

県と町と当院との連携による看護師確保Project

まちを挙げて総力を挙げて

ＷＬＢ推進３年目の2018年度は、看護師確保にむけた総力戦とするために県の「やまがた暮らしインターンシップ事業」に参加し、移住確保対策との連携による取り組みを実践しました。

主な取り組み内容は、首都圏での相談会の開催、移住体験ツアーの開催、空き家改修等であり、初期の段階から県と町のまちづくり部局、当院との連携による事業展開となりました。

また相談会では、県看護協会からご支援・ご協力をいただきました。

看護師確保対策に取り組んでいます

県と町と当院との連携による看護師確保Project

総力を挙げて

プロジェクト1

「看護師・看護学生のための」山形県・最上町移住個別相談会

期日　平成30年11月17日
会場　ふるさと回帰支援センター内・山形県移住相談窓口

〈参加団体等〉
山形県、山形県最上町、最上町立最上病院、
（公社）山形県看護協会
〈相　談　形　式〉
個別相談（要予約・先着約５名）
病院への就職に関すること（県内病院の情報、勤務環境等）や暮らしに関することなど。
〈相談対象者〉
看護の資格をお持ちの方か看護学校または養成所に就学されている方で、山形県や山形県最上町での就業を希望・検討している方や、勤務環境などについて興味・関心のある方。

プロジェクト2

「看護師・看護学生のための」最上町暮らし体験ツアー

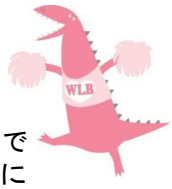
期日　平成30年12月15～16日
会場　最上町立最上病院ほか

１日目　12:45 新庄駅東口集合
・みつざわ未来創造館らいず（昼食）
・ウェルネスプラザ見学
・先輩看護婦や地域の方々との座談会
・温泉宿に宿泊
２日目
・若者定住環境モデルタウン見学
・手しごと体験（かご作り）
・東法田みつわ会　そば打ち体験

啓発チラシ(表面)

啓発チラシ(裏面)

ＷＬＢ推進３年間を振り返って



NEVER GIVE UP

〈総括〉　初年度と２年目の後半までは、看護師の夜勤体制や休暇取得、職場でのお互い様意識の醸成等にむけて活発な活動が見られましたが、以降についてはやや“トーンダウン”や“息切れ感”があった点は否めません。

その要因として、活動への取り組みが一部の職員に集中する傾向にあり、職員全体のものに成りえてなかったこと等が反省点として挙げられます。なかでも組織的に、あるいは個々の職員の意識面で負の作用として大きな影響を及ぼしているのが、活動自体がなかなか成果として現れないという事実、さらに追い打ちをかけるように看護師等の職員募集に“応募がない“というという現実です。いわゆるモチベーションの低下です。

こうしたなか、モデル指定３年目はＷＬＢ推進のみならず『人材確保』の面で、関係機関や団体との連携による新たな取り組みにチャレンジしたことが特筆されます。少しずつですが、その成果が現れ始めています。

ＷＬＢ推進事業のモデル指定は昨年度で終了しましたが、今年度以降も推進体制をより充実させ、小さな成功体験を数多く積み重ねていきます。

結びに

医療勤務環境で喫緊とされる課題は、医師や看護師等の専門スタッフの確保です。この課題の解決に向け、最上町では、町立最上病院におけるワーク・ライフ・バランス推進にむけた実践を行ったほか、町議会での病院改革や地域包括ケアシステム構築をテーマにした『特別委員会』を設置・協議、さらに町長部局の移住定住促進の担当部署と県の関係部署との連携による新たな人材獲得にむけた実践を展開しています。

当院の自助努力だけでは限界があります。今後もこのような連携に心掛け、『最上町スタイル』と言われるような取り組みを継続していきます。

まずは立場を越えて連携し合い
課題と目的意識の共有化を
図ることが重要!!

令和元年10月1日・福島開催

医療勤務環境改善マネジメントシステム普及促進セミナー

ご清聴ありがとうございました

“思いやり”と“やりがい”をもって
働き続けられる職場を目指す!

事例発表／最上町立最上病院